

## 【高知県立大学】

社会福祉学部 1 回生 私費留学生

李 傑(り けつ)

中国出身



### 成長についての話

日本に来る前には、正直に言えば、高知のことを全く知らなかった。そして、日本に来て、岡山で生活している間も、周りの友人やアルバイトのパートナーからの高知についての評価はあまり高くなかった。自然が豊かだけれども、田舎で遊ぶところがないなどと頻繁に聞かされた。当時は、いつか高知に行こうかとは一切思わなかった。しかし、「遅咲きのヒマワリ」というドラマや「県庁おもてなし課」という映画を見たことを契機に、高知のことを知った。日本最後の清流と呼ばれている「四万十川」の風景は正に美しい。高知へぜひ行ってみたいと思うようになった。これは高知に来た理由の一つであるが、より重要な理由としては、高知県立大学では介護コースの課程が設置されているということがあげられる。

2015年4月に入学してから今まで様々な体験をした。非常に成長したと思う。

学習面では、授業で社会保障制度改革の流れや背景などをより深く理解したり、社会問題に対する認識を新たにしたり、「老い」という単語に対する理解も深めたりしている。しかしながら、留学生の私にとっては、言葉の表面的な意味を知っていても、異文化を前提にした文章の理解はなかなか難しいのが現実である。この異文化のおかげで、私は学校の図書館の「常連客」になった。さらに、図書館の職員さんの一人と知り合いになった。しかし、いかに図書館の資料を調べても理解できない課題が多くあるのは否定できない現実である。この問題を解決するために、県立大学では、通常の授業だけでなく、わざわざ留学生の日本語を指導する先生の授業も設置されている。先生の熱心な指導の下で、授業に関する課題が理解できるようになったのみならず、授業以外の日本文化も客観的に見ることができるようになった。そのおかげで、私は周りの環境にすっかり溶け込んでいると言っても過言ではない。周りの環境に溶け込んでいるからこそ、大学の授業に集中できる。それゆえに、専門的な知識がきちんと身につけられると思う。

生活面では、高知に来てから、生活をゆっくり、楽しんで過ごそうという意識が強くなってきた。これまでの生活リズムは少し速くて周りを振り返ることができなかった。そのため、家族や友人との交流を怠ったこともある。周りの人を大事にするという初心を完全に忘れていた。現在の心境は、心に余裕を持ちながら生活を楽しむことである。確かに授業は重要であるが、時間を有効に利用することを意識して、たまには時間を空けて自分の好きな文章を読んだり、家族や友人とチャットしたり、行ってみたい場所へ行ったりするのも人生の中に必要ではないかと思う。

正直に言えば、最後に何を書けばいいのかまったくピンと来ないが、この間、「高齢社会について考える日中国際シンポジウム」の講演会を聞くために、岡山に帰った。その時、日本語専門学校の先生と会った。先生に言われた一言を借りて文章の締め括りにしたい。

「君、だいぶ成長したね。やっぱ高知に行って良かった。」